

平成 23 年 6 月吉日

日本外傷学会外傷専門医研修施設 施設長殿
日本外傷データバンク登録施設 施設長殿
救命救急センター 施設長殿

「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」に関するアンケートのお願い

一般社団法人日本外傷学会
代表理事 横田順一郎
臓器損傷分類委員会委員長 横田 裕行

2008 年 3 月に公表された「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」は 1997 年に作成された臓器損傷分類をもとに診断機器や治療の進歩に合わせて改訂した臓器損傷分類です。また、本委員会では 2009 年に日本神経外傷学会と共同して頭部外傷分類を作成し、引き続き外傷診療にお役にたてるように活動をして行きたいと思っています。

さて、「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」は公表して 3 年を経過しました。そこで今回は急性期外傷診療に深く携わる皆様の「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」に対するご評価やご意見をアンケートにて集約したいと存じます。「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」作成直後にも今回と同様のアンケート調査を行っていますが、上記の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

大変恐縮でございますが本アンケートにご回答いただき、同封の封筒にてアンケートを 7 月 15 日（金）までにご返送いただければと存じます。アンケート回収の後は改めて先生方に結果を報告させていただきます。

お忙しい中、大変申し訳ありませんが、何卒ご協力の程よろしくお願いいたします。

貴医療機関名と先生のお名前等をご記載下さい。

貴医療機関名 ()
貴医療機関の住所 ()
先生のお名前 (任意) ()
先生のお肩書き (任意) ()

設問 1 : 貴施設について

1) 貴施設は日本外傷学会外傷専門医研修施設ですか。

- 外傷専門医研修施設である
 外傷専門医研修施設ではない

2) 貴医療機関は日本外傷診療研究機構の日本外傷データベースに登録をしていますか。

- 登録をしている
 登録をしていない

3) 貴医療機関は

- 救命救急センターである
 救命救急センターではない

設問 2 : 貴施設では日本外傷学会分類 2008 を使用していますか。

- はい
 いいえ

上記設問で“いいえ”の場合は以下に理由を記載していただき、設問 5 以下にお進みください。

・臓器損傷分類を使用していない理由

設問3：下記の本学会臓器損傷分類の中で頻用されているものに「○」、時々使用するものに「△」、殆ど使用しないものに「×」をつけて下さい（複数回答可）。

肝____、脾____、膵____、腎____、消化管____
間膜・小網・大網____、胸郭____、気管・気管支____
肺____、横隔膜____、心____、大血管____、骨盤____

上記、設問3で「△」、あるいは「×」と回答された施設はその理由を記載してください（任意）。

設問4：臓器損傷分類の Appendix についてどのようにお考えですか

- 必要である
- 必要ない
- どちらでもない

上記、設問4の回答理由をお教えください（任意）。

設問5：臓器損傷分類には尿管、膀胱、及び尿道損傷の分類がありませんが必要でしょうか。

- 必要である
- 必要でない
- どちらでもない

設問6：設問5で「必要である」と回答された施設に伺います。

- 尿管、膀胱、尿道損傷いずれの分類も必要である
- 尿管、膀胱、尿道損傷のうち、いずれかの分類が必要である
(必要なものに○：尿管、膀胱、尿道)

設問7：(回答は任意です) 肝、脾損傷分類に関して画像所見を中心とした以下のような分類を参考として記載してはどうかという意見があります。以下の表を参考にご意見を頂きたいと思えます。

- ① 治療方針を考える上でCT所見から表1のような考え方にもとづいた分類の必要性についてどのようにお考えですか。
- 有用である
 - 有用でない
 - どちらとも言えない
- ② 上記①で「有用である」「どちらとも言えない」と回答された施設に伺います。表2、3のような肝外傷と脾外傷のCT分類について利用しても良いというお考えはありますか。
- 利用してもよい
 - 利用しない
 - どちらとも言えない

表1：CT所見に基づく肝、脾損傷分類とマネージメント

Grade	Management
• I	保存的、経過観察不要
• II	保存的、経過観察
• III	嚴重な経過観察またはIVRを考慮
• IV	IVR(開腹術)を考慮
• V	開腹術(IVR)を考慮

表2：CT所見に基づく肝損傷分類

Grade	Description of Injury
I	被膜下血腫、裂傷または実質内血腫・損傷 < 1cm(深さまたは最大径)
II	裂傷または実質内血腫・損傷 > 1cm(深さまたは最大径)
III	被膜断裂を伴わない実質内もしくは被膜下の 活動性出血、仮性動脈瘤および動静脈瘻 門脈、 肝静脈ないしはIVC周囲に達する血腫・損傷
IV	被膜断裂部の実質内活動性出血、仮性動脈瘤およ び動静脈瘻
V	腹腔内へ注ぐ活動性出血、離断型損傷、門脈また は肝静脈一次分枝以内の損傷

表3：CT所見に基づく脾損傷分類

Grade	Description of Injury
I	被膜下の損傷または血腫<1cm(最大径または深さ)
II	被膜下の損傷または血腫が1cm以上3cm未満(最大径または深さ)
III	被膜断裂または、被膜下の損傷または血腫 \geq 3cm (最大径または深さ)
IV	実質内または被膜下の血管損傷の所見(仮性動脈瘤、血管外漏出像、動静脈瘻)または、粉碎型損傷(3つ以上の造影される実質に粉碎されたもの)
V	腹腔内へ拡がる活動性出血(血管外漏出像)または、脾門部の動脈または静脈損傷

臓器損傷分類全般に関してご意見・ご要望がありましたらお教えください(別紙回答可)。

ご協力ありがとうございました